

# 講義概要（2009年開講科目）

（基礎科目・専門教育科目）

T（テキスト科目）、S（スクーリング科目）、J（実習）

開講年次	単位数	授業形態	科目名	講義等の内容
1	2	T	法学	まず初めに、何故法が必要なのか、法の役割とは何か、といった法に関する一般的抽象的なものから始め、法の性格や現在の法体系といった法に関する基礎的知識を身につける。そしてその上で、最高法規である憲法を取りあげ、我々と憲法との関係を見ていくことにより、法に対する理解を一層深めたい。
1	2	S	情報処理入門	OS（Windows）やMS－Word等の基本的な操作（文書ルール、ビジネス文書の作成練習、作図・作表）を学ぶ。また、Internet ExplorerやMS－Wordを利用してホームページを作成し、情報の収集・発信を体験する。Excelの基本的な操作について確認した後、Excelを利用した健康情報の活用を考える。
1	2	T	国語表現法	人間の言語伝達能力は、階段として次の順位で発達する。 1 他者が話す言葉を理解する。 2 話すことで自分の意志を伝える。 3 文章表現を通して他者を理解する。 4 文章表現を通して自己を表現する。 「国語表現法」とは、このうち4を眼目とすることはもちろんだがしかし、その表現方法には短歌、詩、小説、メルヘンなどの文学的なものから、論文などの学術的なものまで幅が広い。表現を通した心の豊かさを目的として、多彩な分野を学習する。
1	2	S	英語コミュニケーション	国際社会におけるコミュニケーションの手段としての英語の重要性が高まる中、その第一歩として日常会話で必要とされるコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。英語の四技能のうち、リスニングとスピーキングに重点を置き、英語を聞いたり、話したりすることに抵抗を感じなくなるように、日常の様々な場面での会話の聞き取り練習を行っていく。さらに、旅行や日常での会話で必要とされる語彙や表現方法についても学習する。
1	1	T	体育講義	現代社会における運動やスポーツの意義を理解し、実践に結びつける。健康と運動の関わりや、現代スポーツにおける問題点を各自で考えてもらう。
1	1	S	体育実技	人間にとって健康で積極的に生きる態度をもち、行動化することは究極の願いである。具体的に健康阻害が筋肉や関節、循環器などが衰えてきている現在では、健康増進の為の運動実践と生涯にわたって活用できるためのスポーツ運動実施により、基本的技能や知識を身につけ生涯にわたって安全かつ効率的に運動を行い、体力を向上させていく学習を行う。
1	2	T	児童福祉	我が国は1997年児童福祉法が抜本的に改正された。しかし児童を取り巻く環境は、劣悪、脆弱化しており、児童虐待、少年非行、いじめ、少子化等、深刻な社会問題となっている。急速に変容している現代社会の中において、はたして児童1人ひとりの最善の利益は守られているのだろうか。ここでは、児童福祉従事者に求められる児童福祉の理念、歴史、制度、児童家庭福祉援助のありかた等、専門的な基礎知識を学習する。
1	4	T	保育原理	変動する社会のなかでの保育のあり方を、子どもを人間らしく育てるとはどういうことかを主軸にすえ、人間が生まれ成長する原点に立ち返って、家庭と保育所、さらには地域との連携、また家庭における夫と妻の子育てをめぐる共同という観点も視野に入れて考える。具体的には、とくに子育てと保育の現状、保育所保育の内容、子どもにとっての自立の意味を押さえた上で、さらに保育と子育ての歴史のなかで、保育所、そして保育士の役割、そして家庭との連携について学ぶ。

## (専門教育科目)

開講年次	単位数	授業形態	科目名	講義等の内容
1	2	T	養護原理	社会的養護形態としての施設養護の歴史、制度、現状を学び、その基本原理について学ぶ。また、児童の健全育成や成長発達促進のために行われる社会や大人の側からの様々な援助活動（社会的養護）について学習し、各種児童福祉施設における児童養護の原理について考察する。
1	2	T	教育原理	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教育の本質や学校教育のあり方を今日的教育問題の関連において考察する。 学校と教育の矛盾が噴出する今「人間研究としての教育学」の追求が求められている。これら近年の教育学研究の動向を踏まえつつ、教育に関する基礎的概念についての理解を深め、教育のあり方について考える。 とりわけ現在、教育問題の焦点は、子どもの発達の危機にあることから、学ぶ存在である子どもの側から教育を問い直す。
1	2	T	発達心理学	人の心は生まれてから死ぬまで、どのように発達し成長していくのか。新生児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、中年期、老年期それぞれの発達段階の特徴や課題を概説する。また発達に関する諸理論、発達に影響を与える要因等についても学習していく。
1	4	T	小児保健	生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解させ、今日、発生している小児の心身の健康問題の原因が、養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処できるように意識を高める。 また、小児の健康状態を、個人生活と保育生活等の集団生活レベルで理解させ、小児の疾病異常や事故の特徴とその予防について理解させ、緊急時の基礎的対応を可能にさせるとともに、小児の健康が家庭や地域との密接な関係があることを認識させ、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解させる。
1	1	J	小児保健実習	子どもの健康状態を把握するための観察の視点、評価の方法、病気やけがが発生した時の健康管理、安全管理の方法などを保育士として実践がおこなえるようにする。
1	2	T S	小児栄養	乳幼児期の食習慣が、人間としての成長に重要なかわりを持っていることを認識し、栄養、食品、調理の基礎知識を学習する。 さらに、乳児期、幼児期、学童期、思春期の具体的な食事のあり方や集団給食での食品衛生など、保育者として必要な知識を学習する。
1	2	T S	乳児保育	わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割について理解する。また、保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。 広く乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学びながら、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解する。
1	1	S	障害児保育 I	近年、障害児・者の教育と福祉の実践については、それぞれの実践の成果とともに、国際的なノーマライゼーションの理念を視野に入れて、大きく変わろうとしている。障害児教育においても、従来からの特殊教育の対象に、LD、ADHD、高機能自閉症を含む軽度発達障害が含まれ、名称も「障害児教育」から「特別支援教育」へと変更された。制度的にも発達障害者支援法、支援費制度などが整備され、質的向上を図る支援が求められている。ここでは、障害児の福祉、障害児の概念、障害児教育・保育の歴史の変遷、乳幼児の発達について学ぶ。

開講年次	単位数	授業形態	科目名	講義等の内容
1	1	S	養護内容	養護原理で学習した施設養護の基本原則を踏まえ、各種児童福祉施設におけるケアワーカー（保育士）に必要な児童養護の専門知識、倫理ならびに具体的な指導処遇方法の実際について学ぶ。
1	2	T S	幼児音楽 I	「指定保育士養成施設の指定基準について」の「教科目の教授内容」の「基礎技能」に示された内容、「音楽（略）」に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関するさまざまな活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる」ことを目標として、楽譜を読むために必要な基本的な知識、ソルフェージュや器楽に関する知識や技能、音楽活動を通じた楽しさや喜び、歌や楽器・ピアノでの伴奏など保育実践に必要な知識や技能を学ばせる。 また、幼稚園教育要領の領域「表現」に示された「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目標として、以上の内容を実践するための知識技能を学ばせる。
1	2	T S	図画工作 I	保育における造形分野の理論・実践について広く演習を行い、基礎的な知識・技能を習得する。 具体的には、今日の幼児造形のあり方について目的を明らかにした後、形・色・量・デザインなどの造形要素について実践的に取り組む。また幼年期の発達段階に応じた適切な教材について演習を行う。 また素材や道具についても絵画や立体造形に必要な実践力を身につける。
1	2	T S	幼児体育 I	幼児期の心身の発達特性をふまえ、身体活動の意義を理解するとともに、運動遊びの援助がより実践的に行えるよう、学生自身の運動技能を高めるとともに、指導法、補助法を修得する。 特に、3～5歳児の神経系の発達が顕著で人間関係が豊かになる時期に焦点をあて、コミュニケーションおよび身体の調整力を育てる運動のあり方を探っていく。
1	2	T	教育基礎論	今、いじめ問題をはじめとする教育にかかわる問題が深刻化している。まさに教育再生が急務である。「教育は人なり」と言われるとおり、教育には、教員自身の資質向上が不可欠である。とりわけ、人の一生を左右する幼児期の教育は重大であり、教育（保育）者の責務もまた大きい。 本講では、教育の原点を見極め、教員としての理念と使命感を高めるとともに、教育にかかわる者の勤務・職務等についての意識と基礎的な知識を深めることを目的とする。
1	2	T	教育課程総論	幼児理解を深め、関係法規・幼稚園教育要領をもとに、幼稚園における教育課程の意義と編成の方法について理解することを目的とする。その為に、我が国の保育の変遷と現状、幼児期の発達の特性、幼稚園教育の基本と目標、環境を通しての教育、遊びを通しての総合的な指導、保育のねらいと内容、及び教師の役割、教育課程と指導計画について考察させる。
2	2	T	社会福祉	社会福祉とは何かということから始め、社会福祉の動向について学習を進める。少子高齢化問題、社会保障の基礎構造改革、ノーマライゼーション理念に基づいた社会福祉のあり方を福祉サービスの担い手や専門家の立場から考えられるようにする。そのために社会福祉の現場の具体的な仕事や法制度を実態に即して理解を促していく。

開講年次	単位数	授業形態	科目名	講義等の内容
2	2	T S	社会福祉援助技術	<p>近年個人の価値観、家族観は多様化しており、それらを支援する社会福祉もまた複雑さを増してきた。そのため社会福祉援助者には豊富な知識と高度な技術が求められる。社会福祉援助の中心的な技術は、コミュニケーションや信頼関係といった目に見えないものである。</p> <p>この講義は専門知識と技能（スキル）だけでなく、福祉現場（保育所・福祉施設・相談機関等）での事例を通して、ニーズの多様化と具体的な援助の実際を演習する。</p>
2	2	T	教育心理学	<p>児童虐待、不登校やいじめの問題、発達に関わる問題などを、学校現場においてどのように理解し援助していくかといった事例研究を通して、学校現場における心理学の理論と技法について学ぶ。子どもや家族への具体的な対応や、他機関・他職種専門家との連携等も事例を通して詳細に紹介する。</p>
2	1	T	保育内容（健康）	<p>子どもの身体の発育と健康、運動の発達と健康、精神機能の発達と健康、生活習慣の発達、基本的生活習慣の形成、生活リズム、睡眠の習慣、食事の習慣、運動遊び、安全教育と事故防止などの基礎的事項を学習する。</p> <p>さらに保育現場において、健康面における適切な指導や援助のできる保育者の役割を理解する。</p>
2	1	S	保育内容（環境）	<p>保育の目標を達成するためには乳幼児期にどのような生活環境が保障されなければならないかという総合的な視点を基に、保育内容「環境」について保育所保育指針・幼稚園教育要領を手がかりに理解を深め、そのねらいを達成するためにはどのような保育実践がもとめられるのかを探る。また、学生自身が身近な自然や文化にかかわり、体験を通して好奇心や探求心、感性や思考力を豊かに育てる。</p>
2	1	S	保育内容（表現）	<p>幼児が活発で創造的な活動をし、十分に自己表現ができるようになるためには、こころと身体および感性を育てることが重要である。そのために必要な知識、技能、指導方法を修得する。</p> <p>また、幼児のさまざまな表現活動を受け止め、さらに引き伸ばすために、学生自身の知識、感性、表現力を養う。</p>
2	1	S	保育内容（総論）	<p>幼稚園・保育所を通して保育内容を総合的に考え、人間の育ちの基本の部分に位置するこの乳幼児期に集団的な場の経験内容として、どのようなものが基本的に大事かということを考えて子どもの主体性を育てる保育指導法の習慣を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育における保育内容の構造</li> <li>2. 保育所保育における保育内容の構造</li> <li>3. 保育内容の実践的理解</li> </ol>
2	2	T	障害児保育Ⅱ	<p>障害児保育Ⅰで深めた障害児教育・保育の理論を基に、ここでは、障害児の療育活動について、障害の早期発見・早期療育、障害別療育、統合保育について理解するとともに、保育園、障害児施設における療育の実際について深める。</p>
2	2	T	幼児音楽Ⅱ	<p>保育者として必要な音楽の知識・技能・指導力を深め、音楽的感性と表現力を培って、子どもたちと共に音楽に親しみ、楽しむ能力を育成する。さらに音楽の学習体験を通して創造性をのばし、生活に潤いをもたらして豊かな人間性を養う。</p>

開講年次	単位数	授業形態	科目名	講義等の内容
2	2	T	図画工作Ⅱ	造形表現に関する専門的知識・技能を高め、幼児教育における指導者としての能力を高める。 具体的な造形活動理論の研究を行う。特に造形遊びについては、現場で実践されている教材やこれからの幼保一元化に対応できる新しい教材の開発に繋がる理論を学習する。 また保育実習、教育実習で活用できる教材や壁面装飾のデザインなどについても学習する。
2	2	T	幼児体育Ⅱ	幼児期における身体運動は、その後の成長過程における運動能力や運動技能の発達に影響を及ぼす、日常動作の中で遊びからあらゆる動作の基本が身に付くものである。 そこで、幼児期に必要な運動に関する知識を深めるとともに実践的に指導や技能の修得を学習する。又指導者としての必要な体力や基礎技能を身につける。
2	2	T S	器楽	保育者に求められるピアノの基礎技能の習得と応用力を養う。授業は、個人レッスン方式を採用し、近代音楽の基礎である古典派音楽の教材を通して、ピアノの基礎技能を修得する。これを習得したものは、応用として、ロマン派以降のピアノ曲や保育に係る楽曲を学ぶ。
2	1	S	保育実習指導	(概論) 保育実習を円滑に進めていくために、保育実習の意義、目的、内容、方法、心構えを理解させるとともに、実習課題を明確化させる。また、実習記録の意義・方法、実習施設について理解を深める。実習中には巡回指導を行い、実習施設の実習担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンを行う。実習後には実習記録や実習施設からの評価をもとに、事後指導を行い新たな学習目標を明確化させる。  (10 藤井伊津子) 保育所での保育実習に関する指導を中心に行う。保育所・施設に共通する部分の実習指導については、他の担当教員とも連携・協力して、包括的に学生の指導にあたる。  (8 仁木一栄) 施設での保育実習に関する指導を中心に行う。保育所・施設に共通する部分の実習指導については、他の担当教員とも連携・協力して、包括的に学生の指導にあたる。
2	2	J	保育実習Ⅰ(保育所)	実際に保育所の現場に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能、保育士の職務について学ぶ。 具体的な内容として、実習施設の理解、保育の1日の流れ、乳幼児の発達、保育計画・指導計画の理解、保育技術の習得、職員間の連携、家庭・地域への理解、子どもの最善の利益、保育士としての倫理、安全・疾病予防への配慮について理解する。
2	2	J	保育実習Ⅰ(施設)	実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶことを目的とし、実習施設について、養護の1日の流れ、子どものニーズ、援助計画、職員間の役割分担とチームワーク、家庭・地域社会について、保育士としての職業倫理、安全及び疾病予防への配慮について理解するとともに、養護技術を習得し、子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。

開講年次	単位数	授業形態	科目名	講義等の内容
2	2	J	保育実習Ⅱ(保育所)	保育実習Ⅰを基礎として、保育所の保育に実際に参加し、保育技術の習得、乳幼児の実態、指導計画の実際、子ども家庭とのコミュニケーションの方法、地域社会との関係、子どもの最善の利益への配慮、保育士の職業倫理、子育て支援の現状と課題等を理解し、保育士として必要な資質・能力・技術の習得、子ども家庭の福祉ニーズへの理解と判断力を養うとともに、自己課題の明確化をはかる。
2	2	J	保育実習Ⅲ(施設)	保育実習Ⅰを基礎として、保育所以外の児童福祉施設、その他社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、家庭と地域の生活実態にふれて子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養い、子育て支援に必要な能力を養う。そのため、子どもの個人差について理解と対応方法、また、援助計画、コミュニケーションの方法、地域社会との連携、子どもの最善の利益を具体化する方法等について学び、児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。
2	2	T	幼児理解	子どもの生活と文化についての歴史と現状への理解を深め、子どもの発達と遊びとのかかわり、保育者の役割について考える。そして、乳幼児の発達を支え育てていくための遊びや文化を伝えていくことができる保育者としての知識と技能を習得する。
2	2	T	保育指導法	幼児期の発達の過程を踏まえ、その発達の特性に即した保育とはどのような方法が望ましいのか、環境をとおした保育とはを探るとともに、指導の展開について考える。そのために、保育方法の歴史の変遷をみていくとともに、発達に即した環境を通した総合的な指導の実践例に触れながら、保育の基本、幼児と保育者の内面理解を深め、指導方法について考察する。
2	2	T	教職論	今、若者の生活は疲弊し、人生観にも大きな狂いが生じたことと関連して、非社会行動や犯罪行動が多発し、教育の荒廃が大きな社会問題となっている。一方、文部科学省をはじめとして、あらゆる分野で教育の改革が実施され、問題解決に全力がはらわれている。いずれにしても、「教育は人なり」と言われるとおり、教育改革を推進するには、教員の役割が大きく、その意識改革と資質向上が不可欠である。 本講においては、教育の重要な役割を認識して、教員としての理念や使命感を高め、教員の役割と職務等について、意識と知識を深めることを目的とする。 その中で、現在の教員には何が求められているのか、教員としての適格性を持つにはどのような努力をしていけばよいかという課題を取り入れ、教職について考察させる。
2	2	T	教育行政学	教育を取り巻く社会的側面や制度的側面、教育経営に関する側面について、基礎的知識を修得することを本講義の目的にする。近代公教育制度の成立と発展という観点から、教育行政の意義、性格、機能、課題等を考察する。 併せて、学校組織や学校運営についても考察させることで、今日の教育行政全般について概説する。
2	2	T	教育方法論	現代の教育の方法と技術について、教師としての基礎的基本的事項について考察し、実践的指導力の育成を目的とします。そのために、教師として大切な機能としての、「支援者としての教師」「カウンセリングマインドとしての教師」や、現代の教師の求められている資質・能力を考慮し、学習活動、生徒指導、教育メディア、学習形態、教材活用・教材開発等と教師の役割を考え、その方法と技術について具体例を基にして探求する。

開講年次	単位数	授業形態	科目名	講義等の内容
2	2	T	教育相談	<p>近年、幼稚園においては、育児不安や育児困難、虐待など親側の問題をはじめ、発達障害（ADHD、LD、自閉性障害など）や神経症的発症など、保育者が対応しなければならない問題は多岐にわたっている。特に幼児期の場合、本人への心理的援助はもちろんのこと、家庭環境の影響も大きいいため、保護者への援助アプローチも重要である。</p> <p>そこで、本講義では幼児教育に携わるものにとって必要とされる、幼児教育現場でのアセスメント方法やカウンセリング等について論じ、教育相談の基礎について学ばせる。</p>

スクーリング開講計画一覧

開講年	開講科目	開講年次	単位数	授業形態	本学会場		岡山駅前キャンパス 週末	広島会場 週末	
					週末	集中			
2011年開講予定科目	20109年開講予定科目	情報処理入門	1	2	S	○	○		
		英語コミュニケーション	1	2	S			○	○
		体育実技	1	1	S	○	○		
		小児保健実習	1	1	S	○	○		
		小児栄養	1	2	TS			○	○
		乳児保育	1	2	TS			○	○
		障害児保育Ⅰ	1	1	S	○	○		
		養護内容	1	1	S			○	○
		幼児音楽Ⅰ	1	2	TS	○	○		
		図画工作Ⅰ	1	2	TS	○	○		
		幼児体育Ⅰ	1	2	TS	○	○		
		社会福祉援助技術	2	2	TS			○	○
		保育内容（環境）	2	1	S			○	○
		保育内容（表現）	2	1	S	○	○		
保育内容（総論）	2	1	S			○	○		
器楽	2	2	TS	○	○				
保育実習指導	2	1	S			○	○		
総合演習	3	2	TS			○	○		
教育実習指導	3	1	S			○	○		

- ※・開講計画は変更する場合があります。  
・スクーリングは○印の会場で開講します。  
・広島会場での受講を希望する学生は地方会場費としてスクーリング履修料の他、別途1単位につき3,000円必要です。